

夏季休暇などあるこの時期は遠出をするドライバーも増え、高速道路の交通量も年間で最多となります。また、この時期は昼間の暑い時間を避けて夜間に買い物をしたり、花火大会などのイベントに出かけるなど、とかく、夜に出かけることが増える時期でもあります。そこで心配になるのが慣れない場所での夜間のドライブです。今回は夜間ドライブの注意事項についてご案内します。

1. この時期の交通量

7、8、9月と高速道路で交通量が増加していることが、右図から見てとれます。

このことから、普段はあまり走らない夜の運転や、見知らぬ土地での運転が多くなっていることが考えられます。

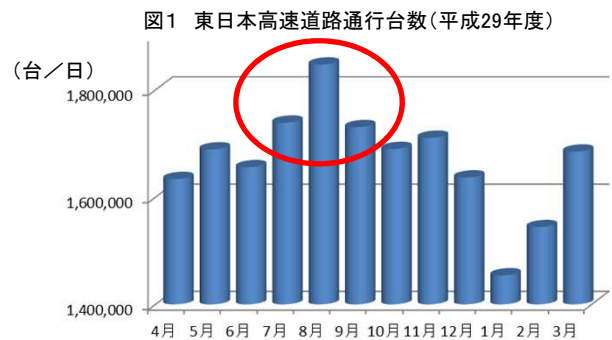


図1: NEXCO東日本ホームページデータより作成
https://www.e-nexco.co.jp/word_data/data/h29_month.html
 (2018/8/2閲覧)

2. 夜間の重大事故発生率

交通事故件数1,000件当たりの死亡事故件数(死亡事故率)は、右図が示すように夜間が「13.9件」で、昼間の「5.4件」に対して、約3倍の頻度で発生しています。

このことから、夜間に発生する交通事故は重大事故になる可能性が高いと言えます。

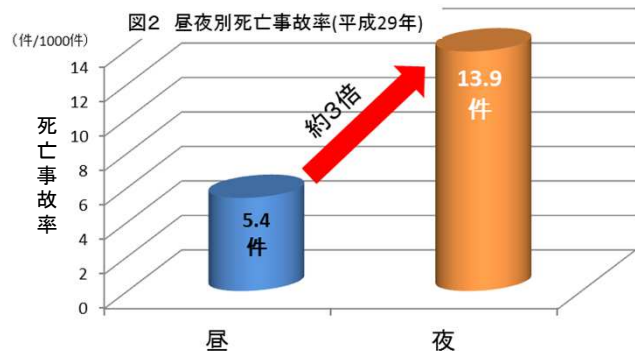


図2: ITARDA 交通統計(平成29年)より作成



3. 夜間に気をつけなければいけない現象

◎スピードの感覚

夜間の道路は総じて暗いことから、ドライバーの視野内で、周囲の動きが刺激になることも少なく、そのため実際より速度を遅く感じる傾向があります。このため、油断していると、車の速度が上がっていることがあります。



同じ道を意識せず走行したところ、昼間は40km/hであったものが、夜間は自然と50km/hになっていた。

◎灯りに目が向くと

照明の強い店舗等がぼつりとあると、つい気になりその灯りを覗き込みたくなります。この時に、強い照明を見てしまうと、暗さに慣れていた目の機能（暗順応と言います）がバランスを崩し、周辺の暗がりが見えづらくなり、歩行者や自転車を見落とす危険が非常に高まります。



4. 夜間を安全に走るには

夜間でも安全に走るためのポイントを、3つご紹介します。

◎先ずは速度を落とすこと

夜はどうしても速度が出がちになるもの。スピードメーターで速度をチェックして、随時速度を修正しましょう。

◎明るい方を見ない

強い照明を直視すると、暗順応が崩れたり、眩惑されたりする恐れがあります。視線は、そらし気味にしましょう。

◎ハイビームの活用

十分な前方視界確保のため、他車の迷惑にならない場合はハイビーム（走行用前照灯）を積極的に活用しましょう。



SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同